

教育研究（研修）の充実に関するグループ

○活動報告

○資料

- 1～3 働き方改革推進の視点に重点を置いた学校組織マネジメントに関わる研修
第2回顛末・第3回顛末・第5回顛末
- 4 業務の進捗状況の交流と好事例の共有 第4回顛末
- 5 先進的な事例から学ぶ視察研修 第6回顛末
- 6 働き方改革の取組の推進・検証・改善

名寄市教育改善プロジェクト委員会

令和5年度 教育研究（研修）の充実に関する研究グループ 活動報告

1 教育研究（研修）グループ組織

グループ主任	太田 健	智恵文小学校 校長
副主任	妹尾 洋美	名寄中学校 校長
研究主任	高橋 賢祐	中名寄小学校 教頭
研究副主任	鈴木 和彦	風連中央小学校 教頭
研究委員	久保 康徳	名寄東中学校 教頭
	小林 昌史	名寄東小学校 教頭
	櫻田 和歌子	名寄南小学校 主幹教諭
	川浦 直也	名寄小学校 教諭
	佐々木 智子	名寄南小学校 教諭
	中谷 健太	名寄東小学校 教諭
	香川 寛明	名寄西小学校 教諭
	坂部 あゆみ	中名寄小学校 教諭
	河口 一葉	智恵文小学校 教諭
	石川 直子	風連中央小学校 教諭
	今野 行太郎	名寄東中学校 主幹教諭
	五十川 徹	名寄東中学校 教諭
	津田 庸介	名寄中学校 教諭
	安齊 沙也	智恵文中学校 教諭
星 進一	風連中学校 教諭	

2 研究内容

研究項目	分担
【重点】スクールリーダーの育成と働き方改革の推進	
1 スクールリーダーとしての力量を高める人材育成研修	
2 各小中学校の連携による、日常教育実践の質の向上	
(1) 働き方改革推進の視点に重点を置いた学校組織マネジメントに関わる研修（講師：北村善春氏（北海道教育大学教職大学院）年3回	高橋教頭 小林教頭
(2) 業務の進捗状況の交流と好事例の共有	
(3) 先進的な事例から学ぶ視察研修	鈴木教頭
(4) 働き方改革の取組の推進・検証・改善	久保教頭

3 今年度の活動経過

年	月	日	主な内容	備考
5	5	15	□第1回教育改善プロジェクト委員会全体会議 ○第1回研究グループ会議 (今年度の研究内容・計画, 役割分担等について確認)	文化センター
	5	30	□第1回スクールリーダー研修会	名寄中
	8	22	□第2回スクールリーダー研修会	名寄中 (小中別)
	9	21	□第3回スクールリーダー研修会	リモート (中部会) 名寄南小 (小部会)
	11	10	□名寄市教育研究大会	名寄東小・風連中
	11	27	□第4回スクールリーダー研修会 兼 学校力向上に関する総合実践事業「名寄市地域協議会」	名寄中
	12	12	□先進的な事例から学ぶ視察研修	旭川市立東光小 荒井建設
6	1	23	□名寄市教育研究集会	EN-RAYホール
	1	26	□第5回スクールリーダー研修会	リモート (中部会) 名寄南小 (小部会)

4 今年度の活動

(1) 働き方改革推進の視点に重点を置いた学校組織マネジメントに関わる研修 (資料1～3)

- 1) 第1回スクールリーダー研修会 (資料1①・②)
 - 【講師・助言】北海道教育大学教職大学院 特任教授 北村善春氏
 - 【講義・演習】働き方改革が目指すものの共有について
 - ① 「自校での働き方改革の目的」について意見交流 (ICT端末利用)
 - ② 「働き方改革」を進める上で整理しておきたいことについての講義
 - ・「形式知と暗黙知」、「認知の4点セット」、「対話の手法」
- 2) 第2回スクールリーダー研修会 (資料2①・②・③)
 - 【講師・助言】北海道教育大学教職大学院 特任教授 北村善春氏
 - 【講義・演習】勤務校の実態からの考察と今後戦略
 - ① 「働き方改革」に関する各校コアチームメンバーの認識結果の情報交流
 - ② 「課題解決へのアプローチ」についての講義
 - ・「問題と課題」「課題設定のプロセス」「成人学習の特性」など
 - ③ 「働き方改革」に関して、11月までに自校で実践する内容の交流
- 3) 第4回スクールリーダー研修会 (資料3①・②)
 - 【講師・助言】北海道教育大学教職大学院 特任教授 北村善春氏
 - 【講義・演習】今年度の実践からの考察と次年度に向けた戦略
 - ① 各校で実践してきたことの共有
 - ② スクールリーダーとしての組織への関わり方についてのまとめ

【参加者の声】

- ・教務が自校の働き方改革を進めるために実践をとおして学んだ「ミドル・アップダウン・マネジメント」について理解できた。今後働き方以外にも応用できることがあると思うので実践していきたい。
- ・今回の取組を行う上での進め方の手順は、様々なことに応用できるので、自身のスキルアップに繋がった。令和6年度の学校経営計画にどう反映させていけばよいか考えていきたい。
- ・各校の構成員の実態に応じて、一人一人の教職員の背景を慮りながら、対話できる集団づくりを行っていくことが大切だと学んだ。
- ・物事を進めるときの段取りの大切さを学んだ。

(2) 業務の進捗状況の交流と好事例の共有

(資料4)

- 1) 第3回スクールリーダー研修会
 - ①各行事の実施状況、宿泊的行事の在り方等に関わる交流
 - ②新年度のスクールカレンダー作成について留意点の確認
 - ③スズキ校務の活用法、評価方法についての交流
 - ④学級経営案の活用のための好事例について交流
 - ⑤各種調査を踏まえた学力向上の取組について交流

【参加者の声】

- ・各種行事等の実施状況の交流は、とてもありがたい。
- ・成績処理業務等の不明な点について他校の先生からアドバイスをいただけたことがためになった。
- ・交流によって、自校の状況を振り返ることができるのも、大変有益だった。
- ・教務として日々の悩みをざっくばらんに交流することもスクールリーダー会議の良さだと思う。

(3) 先進的な事例から学ぶ視察研修

(資料5)

- 1) 「働き方改革推進事業」における推進校（モデル校）としての取組の説明及び校内の施設見学（旭川市立東光小学校）
- 2) 「施設設定の目的と概要」「利用状況」等把握のための施設見学（ICTパーク）
- 3) 「働きがいのある職場づくり」「タスク管理」「事業改善」等における社内の取組に関する説明及び施設見学（荒井建設株式会社）

【参加者の声】

- ・意識や目的を丁寧に共有することが大切だと思いました。「質の高い教育」を目指すからには、ただ「勤務時間が短くなった」ではなく、「教材研究に費やす時間がこんなに増えた」「学力がこれくらい向上した」という成果を目指すことが大切かと思いました。
- ・ICTパークの見学は、知識。見聞を広げることができ、これからの児童・生徒との関わりを改めて考え直すきっかけとなった。
- ・民間の会社は下請けなど、他社や他業者との関わりが大きいので、時間を管理して働き方を改革するのは大変だと改めて感じ。荒井建設さんは、社員のアイデアを吸い上げたり、PDCAサイクルを大切にしたりしていて、本当に素晴らしいと思った。より良い働き方改革をすすめるには、職員の考えを知り、納得した上で行うことが大事だと思うので、これからも対話を大切に進めていきたいと思う。

- 1) Nayoro STAR Actionアンケート内容の確認と実施
- 2) 次年度へ向けての見直し案の検討
- 3) Nayoro STAR Actionアンケート結果全体の考察と、各校における分析

【アンケート結果の分析（成果と課題）】

- ・「働き方改革に関する意識改革や環境の構築」「ICTの効果的な活用」について各校のコアチームを中心とした取組等に基づく建設的な意見が多くみられる。
- ・現段階で9割近くが働き方改革による成果を実感していることから、Nayoro STAR Actionに基づく実践により教職員個々の意識改革が確実に進んでいる。
- ・改善の要素は依然あるものの、各学校において業務の精選や見直し、簡素化がR4年度に比べ、大きく進んでいる。
- ・業務の精選や簡素化の不足、外部機関との連携の煩雑さなどが記述回答から読み取れる。
- ・業務手順の標準化等について課題は残るが、記述回答の中には、制限の緩和、やりがいを大切に業務の推進という部分で、教育の質の向上が見られた。
- ・中学校では部活動への負担からすべての項目で小学校に比べ評価が低くなる傾向がある。

5 「第4次名寄市教育改善プロジェクト委員会」
～令和5年度の研究活動における成果と課題～

【成果】

- 「働き方改革」に視点を置いた北村善春教授による人材育成研修の実施により、スクールリーダー（ミドルリーダー）としての組織への関わり方（ミドル・アップダウン・マネジメント）についての理解を深め、その実践を進めることができた。
- 各校による業務の進捗状況の交流と好事例の共有したことで、名寄市立小中学校の教育活動の水準の維持・向上が図られた。

【課題（次年度に向けて）】

- ▲Nayoro STAR Action実施状況の結果、次年度の北海道アクションプラン（第3次）の内容を踏まえて、新たなNayoro STAR Actionを策定する必要がある。
- ▲視察研修は、研修テーマとの関連性を図り、早期に設定していく必要がある。

令和5年度 教育研究（研修）の充実に関する研究グループ 第2回顛末

1 日時・場所・参加者

- (1) 日 時：令和5年5月31日（火曜日）15：00～16：30
- (2) 場 所：名寄市立名寄中学校 会議室
- (3) 参加者：太田 健 校長（智小） 妹尾 洋美 校長（名中）
 高橋 賢祐 教頭（中名寄小） 鈴木 和彦 教頭（中央小）
 久保 康德 教頭（東中） 小林 昌史 教頭（東小）
 櫻田和歌子 教諭（南小） 川浦 直也 教諭（名小） 香川 寛明 教諭（西小）
 坂部あゆみ 教諭（中名寄小） 河口 一葉 教諭（智小） 石川 直子 教諭（中央小）
 五十川 徹 教諭（東中） 津田 庸介 教諭（名中） 安斉 沙也 教諭（智中）
 星 進一 教諭（風中）

2 活動内容

- (1) 第1回人材育成研修「働き方改革が目指すものの共有について」（北村善春教授）
- ① 〈振り返り〉昨年度の取組について
 - ・個人の意見や認識には、そのように至った背景や価値観があり感情が紐付いている。
 - ・ミドルリーダーはこのことを理解した上で職員室での対話を行うとよい。
 - ② 〈演習〉「自校での働き方改革の目的」について意見交流（ICT端末利用）
 - ・自校での働き方改革の目的について
 - ・教務主任として、時間を確保したい業務について
 - ③ 〈講義〉「働き方改革」を進める上で整理しておきたいこと
 - ・学校は、一人で教科担任・分掌担当・その他の仕事など様々な役割を担っている。これは学校独特の文化で、一つの仕事が忙しくなれば他の仕事に影響を及ぼすことも学校ならではの文化である。外部とのつながりもあり、簡単に仕事を減らせるものでもないという特徴もある。また、教務主任として時間を確保したい業務についても考えに相違が生まれることも演習を通して明らかになった。なぜ相違が生まれたかということ、それぞれの教員の置かれた状況や関心が違うからだと言える。
 - ・子どもと大人の学びは異なっている。大人は、自分が困っているときに学ぶ意欲が起きる。大人は必要感があるときに学びたくなり、学ぶときには対話的に行うと良い。対話をするには、相手との関係性が良くないと進まない。
 - ・働き方改革について、自校に課題があるときは、今日皆さんが演習で行ったように、まずは、働き方改革がどのようなことを目的としてやっているかということや、その先生がどんな仕事に一番時間を使いたいのか、ということをしらべることから始めるとよい。目的を明らかにして、仕事のどの部分を削減できるかと必要感をもって対話的に進めていけると良い。ぜひ、自校でも取り組んでいただきたい。
 - ④ 〈講義〉コアチームメンバーとの対話を各校の状況に応じて実践し、明らかにできたことを考察し、次回共有する。
- (2) Nayoro Star Actionについて（高橋研究主任）
 ○Nayoro Star Actionについて、自校教頭と相談し、各校職員に周知してほしい。
- (3) 各校の日常実践や課題等の交流・改善（研究委員）
 ○小学校部会：運動会について 宿泊研修（熊対策）上教研研究大会時の日課について
 ○中学校部会：スズキ校務について 評価について

3 次回の活動予定

- (1) 第2回スクールリーダー研修会を6月下旬開催で調整する。

令和5年度 教育研究（研修）の充実に関する研究グループ 第3回顔末

1 日時・場所・参加者

- (1) 日 時：令和5年8月22日（火曜日）
 中学校部会 前半：13:30～14:30 後半：14:35～15:00
 小学校部会 前半：14:45～15:45 後半：15:50～16:15
- (2) 場 所：名寄市立名寄中学校 パソコン室・図書室
- (3) 参加者：太田 健 校長（智小） 妹尾 洋美 校長（名中）
 高橋 賢祐 教頭（中略小） 鈴木 和彦 教頭（中央小）
 久保 康徳 教頭（東中） 小林 昌史 教頭（東小）
 櫻田和歌子 主幹諭（南小） 佐々木智子 教諭（南小） 川浦 直也 教諭（名小）
 香川 寛明 教諭（西小） 中谷 健太 教諭（東小） 坂部あゆみ 教諭（中略小）
 河口 一葉 教諭（智小） 石川 直子 教諭（中央小） 今野行太郎 主幹諭（東中）
 五十川 徹 教諭（東中） 津田 庸介 教諭（名中） 安斉 沙也 教諭（智中）
 星 進一 教諭（風中）

2 活動内容

- (1) 第2回人材育成研修「勤務校の実態からの考察と今後戦略」（北村善春教授）
- ① 〈演習1〉「働き方改革」に関する各校コアチームメンバーの認識結果の情報交流
- ・「働き方改革」の目的は心身の健康を保ち、健康であることで子ども達によりよい指導ができることだと回答した教職員が多かった。
 - ・時間を確保したい仕事の内容については、「教材研究の時間の確保」の回答が一番多かった。「学級経営の充実のための時間の確保」や「将来の教員のために働き方改革をしっかりと実施する」といった回答もあった。
- ② 〈講義・説明〉
- どの学校も時間を確保したい内容は「教材研究」だったとのことだが、調査をしてみて初めて説得力をもつデータとなる。この調査を行ってみて、回答の中には少数派の意見があり、教務の先生方が「あれ？」と思うような内容もあったかと思う。これを「はずれ値」という。はずれ値に着目し、「先生、なぜこう考えたの？」と問いかけることが大切。教員は、実は職員室の中で軋轢があり、忖度していることも多い。その内容を掘り起こし本音レベルで整理していくのが、ミドルリーダーの役目と言える。考えを掘り起こしていくときには、自分の教育観と違うときでも評価は一端保留にして、相手はその考えに至った背景と経験に耳を傾けながら、対話することが大切。異なる考えに対しても「反対派」とは受け取らず、対話の中から自分が気付かなかったよりよい意見を汲み取ることができると良い。対話では思った通りには行かないところにチャンスがあることや自分が気付いていなかった違う見方があることを心に留めることが大切。
- ③ 〈演習2〉「働き方改革」に関する自校での11月までに実践の方向性の交流
- ・再調査し、職員の思いや考えを知り、次年度の教育課程編成に生かしたい。
 - ・予備時数削減、学習活動の見直しを検討したい。
 - ・非同期型会議の試行及び導入、定期テストの廃止検討、LINE WORKSによる情報共有、通知表の総合所見廃止等を導入
 - ・特別日課を活用し、放課後時間の確保と有効活用（各自の業務推進の時間に）
 - ・部活動会計業務の整理 など
- (2) Nayoro Star Actionについて（高橋教頭）
 ○各校での取組状況を振り返るとともに、項目の見直しを検討してほしい。
- (3) 各校の日常実践や課題等の交流・改善（研究委員）
 ○小学校部会：宿泊研修・修学旅行の旅行先について
 ○中学校部会：新年度のスクールカレンダー作成時の共通理解事項について

3 次回の活動予定

- (1) 第3回スクールリーダー研修会を、9月21日（木）に開催する。

「働き方改革」に関する自校での実践の方向性と記録

勤務校〔 〕

1 自校における「働き方改革」で実践可能なことは何か

(1) 「実践の目的」

※自身の考えを記述してください。

(2) 「実践の内容」(実施期間は短期で設定する。8月下旬から11月下旬)

※自身の考えを記述してください。

(3) 「目指したい結果(現実的もしくは最低限の目標)」(成果目標)

※自身の考えを記述してください。

(4) 「実践に過程で教職員の関係がどのようになるか」といいと思うか」(プロセス目標)

※自身の考えを記述してください。

2 実践の記録 ※行は増やしていきましょう。

月	実践の内容	実践の結果	
		手応えがあったこと	しっくりこないこと
8月			
9月			
10月			
11月			

令和5年度 教育研究（研修）の充実に関する研究グループ 第5回顛末

1 日時・場所・参加者

- (1) 日 時：令和5年11月27日（月曜日）14:00～15:30
- (2) 場 所：名寄市立名寄中学校 会議室
- (3) 参加者：太田 健 校長（智小） 妹尾 洋美 校長（名中）
 高橋 賢祐 教頭（中名寄小） 鈴木 和彦 教頭（中央小）
 久保 康徳 教頭（東中） 小林 昌史 教頭（東小）
 櫻田和歌子 主幹諭（南小） 佐々木智子 教諭（南小） 川浦 直也 教諭（名小）
 香川 寛明 教諭（西小） 坂部あゆみ 教諭（中名寄小） 河口 一葉 教諭（智小）
 今野行太郎 主幹諭（東中） 津田 庸介 教諭（名中） 星 進一 教諭（風中）

2 活動内容

【第4回スクールリーダー研修会】

- (1) 働き方改革推進の視点に重点を置いた学校組織マネジメントに係る研修③
 「今年度の実践からの考察と次年度に向けた戦略」（北村善春教授）
- ① 〈演習〉各校で実践してきたことの共有
- ・時数をカットし、放課後に授業準備をする時間を生み出した。実践する過程で、コアチームリーダーや教頭など多くの教員が参加できる手立てを講じたり、ネーミングを全職員で考えたりして、学校運営に参画している意欲も高めることができた。
 - ・職員会議の前には、各分掌部長などと事前打ち合わせをもち、会議の時間短縮に努めた。年度の途中でも良いと思ったことは柔軟に変更した事例から、年度途中でも変更をしても良いということがわかった。時数確保に向けて行事の精選について話し合っている。
- ② 〈講義・まとめ〉スクールリーダーとしての組織への関わり方についてのまとめ
- ・「働き方改革の推進」を通して、物事を進めるときには表面上の手順と実務的な手順をその場にいる構成員によって柔軟に変更して実践することの大切さを実感されたと思う。学校は、校長からあるべき理想としての経営方針が示されるが、スクールリーダーは、職員から出てくる疑問や反対意見を拾い上げ、他の職員と連携を図って、大小の阻害要因を乗り越えて、実現していくことが役目である。次年度の学校経営方針にミドル・アップダウン・マネジメントが取り入れられるとよい。
- (2) Nayoro STAR Action の結果分析と共有（久保教頭）
- ・働き方改革については、小中学校共にエビデンスを明確にした業務の精選や、働き方改革の推進が必要だというアンケート結果が出た。詳細は各校に送付予定。
- (3) 各校の日常実践や課題等の交流・改善
- ・特になし
- (4) 確認事項
- ① 視察研修について
- ・12月12日（火）に参加者12名で旭川市立東光小学校と荒井建設を訪問
- ② 名寄市教育研究集会について
- ・教育研究集会の発表者は、中名寄小学校高橋教頭

3 次回の活動予定

- (1) Nayoro Star Actionアンケートの結果についての考察の交流を行う。
- (2) 次年度のスクールカレンダー、行事についての交流を行う。
- (3) 第5回スクールリーダー研修会を1月26日（金）小中別（小：集合、中：オンライン）で実施。

学校名	
参加者氏名	
①	働き方改革に対する教職員の意識を踏まえて実践した内容は何か
実践の記録	
②	それをどのような段取りで行ったか
実践の記録	
③	その結果、明らかにできたことは何か
実践の記録	
④	次年度の学校経営方針に盛り込めそうな観点は何か
考察	

令和5年度 教育研究（研修）の充実に関する研究グループ 第4回顛末

1 日時・場所・参加者

- (1) 日 時：令和5年9月21日（木曜日）中部会13:30～14:30 小部会14:30～15:00
- (2) 場 所：Google Meet（中部会）、名寄市立名寄南小学校PC室（小部会）
- (3) 参加者：太田 健 校長（智小） 妹尾 洋美 校長（名中）
 高橋 賢祐 教頭（名寄小） 久保 康徳 教頭（東中）
 櫻田和歌子 教諭（南小） 佐々木智子 教諭（南小） 川浦 直也 教諭（名小）
 香川 寛明 教諭（西小） 中谷 健太 教諭（東小） 坂部あゆみ 教諭（名寄小）
 河口 一葉 教諭（智小） 石川 直子 教諭（中央小）
 五十川 徹 教諭（東中） 津田 庸介 教諭（名中） 安斉 沙也 教諭（智中）
 星 進一 教諭（風中）

2 活動内容

- (1) 第3回スクールリーダー研修会「各校の日常実践や課題等の交流・改善」

①Nayoro Star Actionアンケート内容の確認と次年度へ向けての見直し

【小部会】

- ・指標に基づいてどの学校もある程度進んでおり、現場ではこれ以上のことはできないのではないかと。今後は、行政側からの改革の視点はないのだろうか。
- ・アフターコロナによる学校行事の再開を検討する際、職員間（世代）の意識の差が大きく、働き方改革の視点を踏まえた再検討が難しい。
- ・今後は、自分自身の働き方を見直すという視点での取組等があってもよい。

【中部会】

- ・現在の内容でアンケートを実施して、経年比較を実施できればよい。
- ・アンケート結果から成果や課題を踏まえて、項目を検討していく必要はある。

②学級経営案の活用方法についての交流

【小部会】

- ・職員会議などの交流の場を設定している。
- ・具体的な手立てを明記して、共有している。
- ・学級や学年の取組について1ヶ月ごとに反省を行い、方策を立てている。

【中部会】

- ・年度当初に計画を交流、前期終了に合わせて成果と課題、改善策を交流している。
- ・各学年で重点教育目標を意識した取り組みを進めている。

③日常業務の進捗状況等の共有（学力向上の取組等、各行事の実施方法）

【小部会】

- ・2週間に1回、学年の代表が集まり、成果と改善策の交流を行っている。
- ・算数少人数指導、チャレンジテストの活用、家庭学習の工夫、重点単元の設定などの取組の実施。
- ・余剰時数の削減を検討しつつ、各校で情報交換しながら次年度の行事予定を作成していく。

【中部会】

- ・端末の持ち帰りに合わせて、学びポケットやeラーニングを活用し、学力の向上を図っている。学習の履歴をもとに、自らの学びを振り返る場もっている。
- ・小学校から継続して家庭学習ノートの取り組みを継続している。個人の取り組みで終わっていることが課題。
- ・困り感の強い生徒に向け、UDを取り入れた環境づくりを進めている。
- ・家庭訪問やコロナ後の卒業式の内容や参加者について各校の取組や現状について交流を図る。

3 次回の活動予定

- (1) Nayoro Star Action実施状況アンケートの実施に向けて、意見集約の調整を行う。
- (2) 第4回スクールリーダー研修会を11月27日（月）14:00～15:30で調整中。

令和5年度 教育研究（研修）の充実に関する研究グループ 第6回 先進的な事例から学ぶ視察研修 顛末

1 日時・場所・参加者

- (1) 日 時：令和5年12月12日（火曜日）8:50～16:30
- (2) 場 所：旭川市立東光小学校、ICTパーク、荒井建設
- (3) 参加者：太田 健 校長（智小） 妹尾 洋美 校長（名中）
高橋 賢祐 教頭（中給小） 鈴木 和彦 教頭（中央小）
今野行太郎 主幹諭（東中）
久保 康德 教頭（東中） 小林 昌史 教頭（東小）
佐々木智子 教諭（南小） 川浦 直也 教諭（名小）
香川 寛明 教諭（西小） 中谷 健太 教諭（東小）
石川 直子 教諭（中央小） 星 進一 教諭（風中）

2 活動内容

- (1) 目的
働き方改革における先進的な取組を進めている学校・一般企業等について調査・研究を行い、各校における働き方改革の推進の参考にするとともに、各研究員の視野拡大と知識向上を図る。
- (2) 内容
- ① 旭川市立東光小学校：「働き方改革推進事業」における推進校（モデル校）としての取組の説明及び校内の施設見学
 - ② ICTパーク：施設見学「施設設定の目的と概要」「利用状況」「施設見学」等について
 - ③ 荒井建設：「働きがいのある職場づくり」「タスク管理」「事業改善」等における社内の取組に関する説明及び施設見学
- (3) 視察の状況
- ① 旭川市立東光小学校
【主な取組】
 - ア) 教職員の意識改革として、「キックオフミーティング」が重要である。「早く帰宅する」ことが目的ではなく、本質は「質の良い教育を目指す」ということを意識づける重要な機会となる。継続的に目的を確認し、取組の方向にずれが生じないようにしていくことも大切。
 - イ) 効率化と質の向上の両立として、「日課の見直し」による時間確保、「職員会議を30分以内に終了させる」、ICTを活用した「スプレッドシートによる情報共有・欠席確認（女子用務員が入力）」、「学習指導案の内容の焦点化」、「動画（授業の事後配信）を活用した研修」等を進めている。
 - ウ) 働きやすい職場づくりとして、危機管理体制の組織的な対応、メンター研修等をはじめとした協働体制の確立、学習指導員等の有効活用などが挙げられる。
【成果】
 - ア) 時間外勤務が過去3年間を通して、確実に減少している。アンケート結果から、職員は改革が進んでいると実感できている。
 - イ) 目指す働き方の共通理解として「仕事のやりがい（ウェル・ビーイング）」を大切にしている。今後もこの考え方を根底に、「ライフワークバランス」と、「自助（生きがい）・共助（共同〔協同〕と良さ〔持ち味〕の共有）」・「公助（市や道、関係機関や保護者に対して働きかけ）」の2つの視点で改革を進めていく。

② ICTパーク

- ア) ICTの急速な進化に伴い、ICT人材の確保・育成を視野に、その時代に生きる若者の新たな可能性を引き出し、思い描いたことを形にできる「ICTの聖地」として施設を設定した。
- イ) 新たな賑わいを創出し、eスポーツを核に人や地域経済の流れを活性化させたい。
- ウ) 高性能PCや映像・音響・照明設備、通信設備の常設、eコミュニケーションスペース、テレワーク施設や、イベントが実施可能な劇場スタイルのホールを有し、eスポーツをはじめ、スポーツビューイング、講演会、学校授業等にも活用可能である。

③ 荒井建設

- ア) 建設業における業務改善は、これまでの管理手法(ISO9001等)から、働き方改革への取組へと移行している。(2024年4月の労働基準法改正に向け、2021年から改めて業務改善に取り組んでいる。)
- イ) 業務プロセスの見直し(PDCAサイクル)、概要図を用いた業務プロセスの可視化、プロセスの最適化による生産性の向上、やり方の改善方法の例示などを通して改善を進めている。
- ウ) 各種法改正に伴う働き方改革の推進は、プロジェクトチームを立ち上げ、長時間労働・休日出勤の改善、働きやすい職場づくりを目指した。従業員意識調査、現場業務実態調査から改善計画を立案し、実行。課題を踏まえて、マネジメントの原理原則、タイムマネジメントの意識革新研修などを取り入れながら進めている。課題に向き合い、様々な工夫をして改善を図っている。社員のアイデアを吸い上げたり、PDCAサイクルを大切にしたりするなど、その取組のプロセスは心から社員を想った丁寧なものであり、また社員も「自分ごと」として関わられるような環境を整えている。
- エ) デザイン思考(デザイナーが一定の制作物を生み出すときに行う思考プロセス)を取り入れたデザイン経営を、業務改善の手法に取り入れている。これは旭川市でも採用してる手法である。業務改善のポスターの作成、グループワークによる意見交換などに活用している。

3 次回の活動予定

- (1) 第5回スクールリーダー研修会を1月26日(金)小中別(小:名寄南小に集合、中:オンライン)で実施。
- (2) 研修会の主な内容
 - ① Nayoro STAR Actionアンケートの結果についての考察の交流を行う。
 - ② 次年度のスクールカレンダー、行事についての交流を行う。

Nayoro STAR ★ Action

～名寄市立学校における働き方改革 5つの取組～

☆ Action	名寄市の取組事例
Action1 意識改革及び環境構築 ○出退勤管理による在校時間の客観的計測 ○時間を意識した業務の推進及び諸会議の進行 ○年休・休憩等が取得しやすい職場風土の構築	<意識改革及び環境構築（取組例）> <input type="checkbox"/> 勤務実態の可視化及び分析による、教職員の内省と意識化 <input type="checkbox"/> 業務の質的向上・始終業時間の明確化、業務の平準化 <input type="checkbox"/> 各学校での時間外勤務の縮減に向けた取組の共有及び実践 <input type="checkbox"/> 有給休暇・休憩時間等の取得の励行、長期休業期間における学校閉庁日の設定 <input type="checkbox"/> 安心安全会議と連携した登下校の見守り（安全パトロール）の実施
Action2 業務の見直しとマニュアル化 ○業務処理手順の標準化・定型業務の自動化 ○スクラップ&ビルト及び教育内容の質的向上	<諸会議（取組例）> <input type="checkbox"/> 日課の調整による会議時間の確保 <input type="checkbox"/> 要検討課題の事前周知による会議進行の円滑化 <input type="checkbox"/> 提案文書の様式のマニュアル化 <input type="checkbox"/> 「説明を伴う提案」と「書面配付のみの提案」等の分けよる時間短縮 <学校行事（取組例）> <input type="checkbox"/> 「年度の重点経営方針」「年度の指導の重点」を踏まえた行事の精選及び内容の見直し <input type="checkbox"/> 令和2・3年度（コロナ禍）における取組の成果の今後の活用 <input type="checkbox"/> 行事の反省直後の次回プランニングの実行とスムーズな引き継ぎ
Action3 ICTの効果的な活用 ○タブレット端末を有効活用した単元計画の作成 ○学校評価、各種調査等のICT化 ○教材・教具の整理整頓、デジタル化 ○スズキ校務支援システムの活用による情報共有	<授業・教材準備（取組例）> <input type="checkbox"/> 作成した教材等の保管場所の明確化及びデジタル化 <input type="checkbox"/> タブレット端末等を有効に活用した教材・教具の共有 <学級通信の発行（取組例）> <input type="checkbox"/> 時間割掲載等を基本とした学級通信の内容の簡素化 <input type="checkbox"/> 発行回数を2週に1度にする等、全校で統一した取組 <情報共有（取組例）> <input type="checkbox"/> スプレッドシートを活用した学校間における情報共有 <input type="checkbox"/> 正確な文書名及び作成日時を明確にしたデータ保管 <部活動指導の負担軽減（中学校のみ）> <input type="checkbox"/> 部活動休養日の実施の徹底 ・平日（週1回以上の休養日） 週末（週1回以上の休養日） ・週末又は祝日に大会参加した場合の休養日の振替 ・学校閉庁日期間中を休養日とすることの徹底 ・道民家庭の日（毎月第3日曜日）は、可能な限り休養日 <input type="checkbox"/> 上限時間内での活動の徹底
Action4 地域・関係団体等と連携した教育活動の推進 ○スプレッドシート等を活用した職員間・学校間の情報共有 ○地域・関係団体等と連携した街頭指導等の外部化	
Action5 部活動指導の負担軽減（中学校のみ） ○名寄スタイルに基づく地域部活動への移行推進 ○「北海道の部活動の在り方に関する方針」に基づく、適切な活動日数・活動時間の設定	

令和5年度 名寄市教育改善プロジェクト委員会
 教育経営の充実（働き方改革）に関するグループ

名寄市働き方改革指標（Nayoro Star Action）
 に関する実践状況アンケート

Action 1	意識改革及び環境構築
Action 2	業務の見直しとマニュアル化
Action 3	ICTの効果的な活用
Action 4	地域・関係団体等と連携した教育活動の推進
Action 5	部活動指導の負担軽減（中学校のみ）

令和4年度から今年度を含め、2年間取り組んでいる「Nayoro Star Action」の実践状況を把握する調査です。各アクションについて、工夫した取組や意見等がございましたら、記述欄にお書きください。

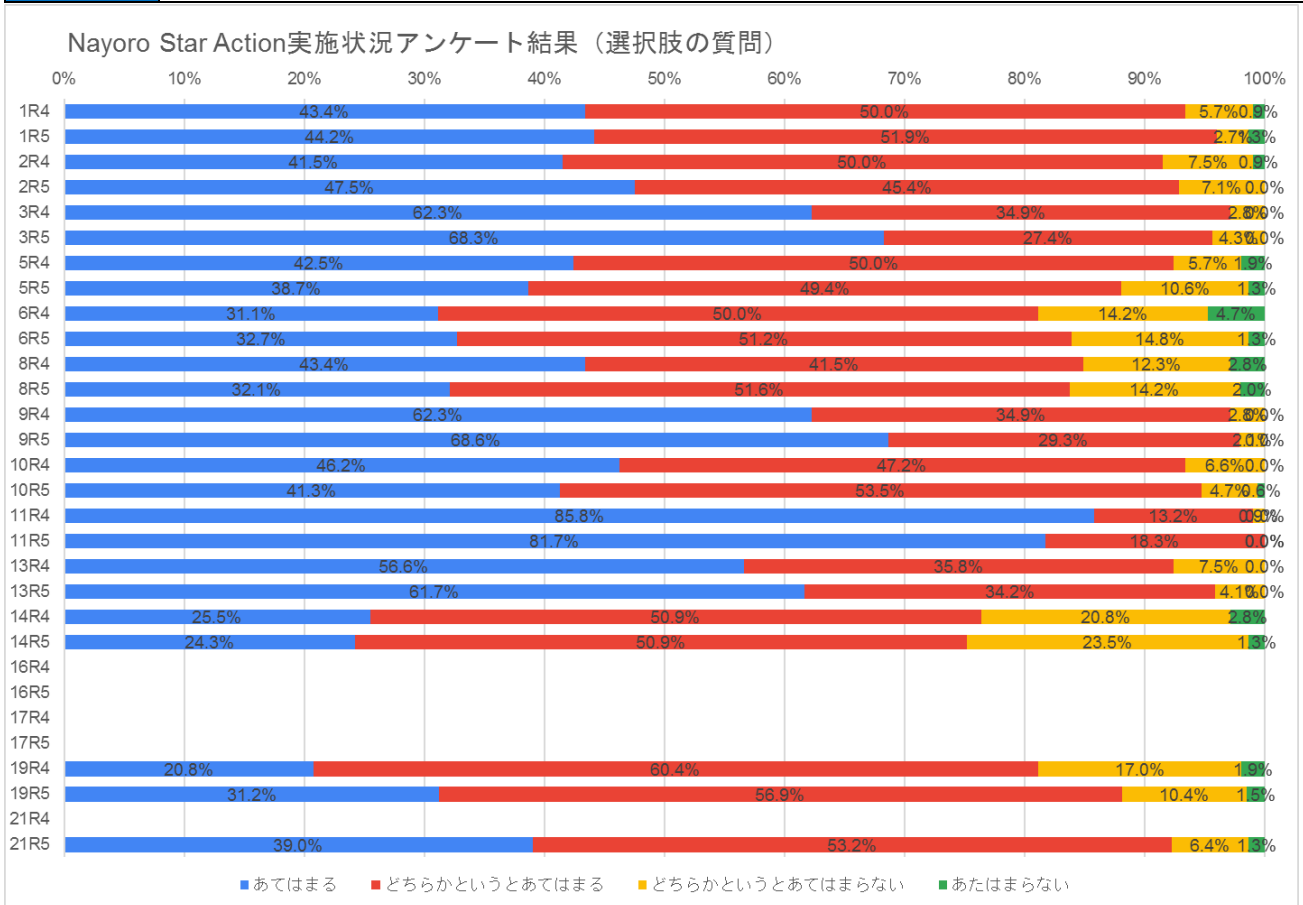
設問	Action	設問内容	設問 類型	1	2	3	4
0		①氏名 ②所属学校 ③年齢 ④役職 ⑤教職経験年数 ⑥担当学年 ⑦部活の有無	必須 入力式・選択式				
1	Action 1	あなたは、効率的で効果的な業務推進を意識し、勤務時間（在校時間）の短縮に努めていますか。	必須 選択式	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかといえ ばあてはま らない	あてはまらない
2	Action 1	あなたやあなたの学校では、時間を意識した業務の推進や諸会議の進行に努めていますか。	必須 選択式	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかといえ ばあてはま らない	あてはまらない
3	Action 1	あなたの学校では、必要のあるときに年休・休息等が取得しやすい職場風土の構築に努めていますか。	必須 選択式	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかといえ ばあてはま らない	あてはまらない
4	Action 1	「Action 1 意識改革及び環境構築」につきまして、あなたの学校で工夫した取組や、意見・要望等がありましたらお書きください。	任意 記述式				
5	Action 2	あなたやあなたの学校では、業務処理手順を標準化したり、定型業務が自動化できるよう整えていますか。【例】学年通信の内容の簡素化や発行回数統一など】	必須 選択式	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかといえ ばあてはま らない	あてはまらない
6	Action 2	あなたの学校では、「スクラップ&ビルド」の観点で、行事や教育活動の精選、内容の見直し、教育内容の質的向上が図られていますか。	必須 選択式	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかといえ ばあてはま らない	あてはまらない
7	Action 2	「Action 2 業務の見直しとマニュアル化」につきまして、あなたの学校で工夫した取組や、意見・要望等がありましたらお書きください。	任意 記述式				

8	Action 3	あなたの学校では、タブレット端末の活用を位置付けた指導計画を作成していますか。	必須 選択式	あてはまる	どちらかというあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
9	Action 3	あなたの学校では、学校評価や各種調査等のICT化を推進していますか。	必須 選択式	あてはまる	どちらかというあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
10	Action 3	あなたの学校では、教材教具の整理整頓、デジタル化を推進していますか。 【例】各学年・各教科等で作成した教材のデジタル化、共有フォルダ内への保管場所の作成など】	必須 選択式	あてはまる	どちらかというあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
11	Action 3	あなたの学校では、児童生徒名簿、出席簿、成績一覧表、通知表、指導要録等の作成にスズキ校務支援システムを活用し、情報の共有化を進めていますか。	必須 選択式	あてはまる	どちらかというあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
12	Action 3	「Action 3 ICTの効果的な活用」につきまして、あなたの学校で工夫した取組や、意見・要望等がありましたらお書きください。	任意 記述式				
13	Action 4	あなたの学校では、Googleアプリ（スプレッドシート、グーグルフォーム、ミーティング等）を活用した職員間・学校間の情報共有が図られていますか。	必須 選択式	あてはまる	どちらかというあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
14	Action 4	あなたの学校では、地域・関係団体等と連携した街頭指導等の外部化が進んでいますか。	必須 選択式	あてはまる	どちらかというあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
15	Action 4	「Action 4 地域・関係機関との連携」につきまして、あなたの学校で工夫した取組や、意見・要望等がありましたらお書きください。	任意 記述式				
16	Action 5	あなたやあなたの学校では、名寄モデルに基づく地域部活動への移行推進に向けて、取組が進められていますか。	必須 選択式	あてはまる	どちらかというあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
17	Action 5	あなたの学校では、「北海道の部活動の在り方に関する方針」に基づく、適切な活動日数・活動時間の設定を行っていますか。	必須 選択式	あてはまる	どちらかというあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
18	Action 5	「Action 5 部活動指導の負担軽減」につきまして、あなたの学校で工夫した取組や、意見・要望等がありましたらお書きください。	任意 記述式				
19	全体	あなたやあなたの学校には、働き方改革が進んでいるという実感がありますか。	必須 選択式	あてはまる	どちらかというあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
20	全体	設問19で「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」とこたえた方にお聞きます。進んでいると実感できるためには、何が必要だと思いますか。	任意 記述式				
21	全体	あなたは、あなたの学校の働き方改革の取組、コアチームの活動や取組に主体的に協力できましたか。	必須 選択式	あてはまる	どちらかというあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
22	全体	あなたは、自分自身の「働き方改革」を進めるために、何をしたいと考えますか。	任意 記述式				

令和5年度 Nayoro Star Action に関する実践状況調査アンケート項目

Action 1	1	あなたは、効率的で効果的な業務推進を意識し、勤務時間(在校時間)の短縮に努めていますか。
	2	あなたやあなたの学校では、時間を意識した業務の推進や諸会議の進行に努めていますか。
	3	あなたの学校では、必要のあるときに年休・休息等が取得しやすい職場風土の構築に努めていますか。
	4	Action 1「意識改革及び環境構築」につきまして、あなたの学校で工夫した取組や、意見・要望等がありましたらお書きください。
Action 2	5	あなたやあなたの学校では、業務処理手順を標準化したり、定型業務が自動化できるよう整えていますか。
	6	あなたの学校では、「スクラップ&ビルド」の観点で、行事や教育活動の精選、内容を見直して、教育内容の質的向上が図られていますか。
	7	Action 2「業務の見直しとマニュアル化」につきまして、あなたの学校で工夫した取組や、意見・要望等がありましたらお書きください。
Action 3	8	あなたの学校では、タブレット端末の活用を位置付けた指導計画を作成していますか。
	9	あなたの学校では、学校評価や各種調査等のICT化を推進していますか。
	10	あなたの学校では、教材教具の整理整頓、デジタル化を推進していますか。
	11	あなたの学校では、児童生徒名簿、出席簿、成績一覧表、通知表、指導要録等の作成にスズキ校務支援システムを活用し、情報の共有化を進めていますか。
	12	Action 3「ICTの効果的な活用」につきまして、あなたの学校で工夫した取組や、意見・要望等がありましたらお書きください。
Action 4	13	あなたの学校では、Google アプリ(スプレッドシート、グーグルフォーム、ミート等)を活用した職員間・学校間の情報共有が図られていますか。
	14	あなたの学校では、地域・関係団体等と連携した街頭指導等の外部化が進んでいますか。
	15	Action 4「地域・関係機関との連携」につきまして、あなたの学校で工夫した取組や、意見・要望等がありましたらお書きください。
Action 5	16	あなたやあなたの学校では、名寄モデルに基づく地域部活動への移行推進に向けて、取組が進められていますか。
	17	あなたの学校では、「北海道の部活動の在り方に関する方針」に基づく、適切な活動日数・活動時間の設定を行っていますか。
	18	Action 5「部活動指導の負担軽減」につきまして、あなたの学校で工夫した取組や、意見・要望等がありましたらお書きください。
全体	19	あなたやあなたの学校には、働き方改革が進んでいるという実感がありますか。
	20	質問19で「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」とこたえた方にお聞きします。進んでいると実感できるためには、何が重要だと思いますか。
	21	あなたは、あなたの学校の働き方改革の取組、コアチームの活動や取組に主体的に協力できましたか。

小学校 Nayoro Star Action 実施状況調査アンケート結果 (選択肢の質問)



1 成果と課題

(1) 成果

- ①項目1, 2, 10, 11, 13, 21については、肯定的な評価(「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせた評価の数)が9割を超え、R4年度と比べても増加傾向にある。Action1やAction3の記述内容を見ても、「働き方改革に関する意識改革や環境の構築」「ICTの効果的な活用」について各校のコアチームを中心とした取組等に基づく建設的な意見が多くみられる。
- ②項目19では、肯定的な評価がR4年度は8割程度であったが、R5年度は9割近くまで増加している。(6.9%増)改善が必要な点もあるが、現段階で9割近くが働き方改革による成果を実感していることから、Nayoro Star Action(以後、NSA)に基づく実践により教職員個々の意識改革が確実に進んでいる。

(2) 課題

- ①項目6, 8, 14では肯定的な評価が8割前後にとどまった。要因として、業務の精選や簡素化の不足、外部機関との連携の煩雑さなどが記述回答から読み取れる。またタブレット端末の活用の位置づけが不十分な学校もあるようだが、利活用については十分な回答が得られている。

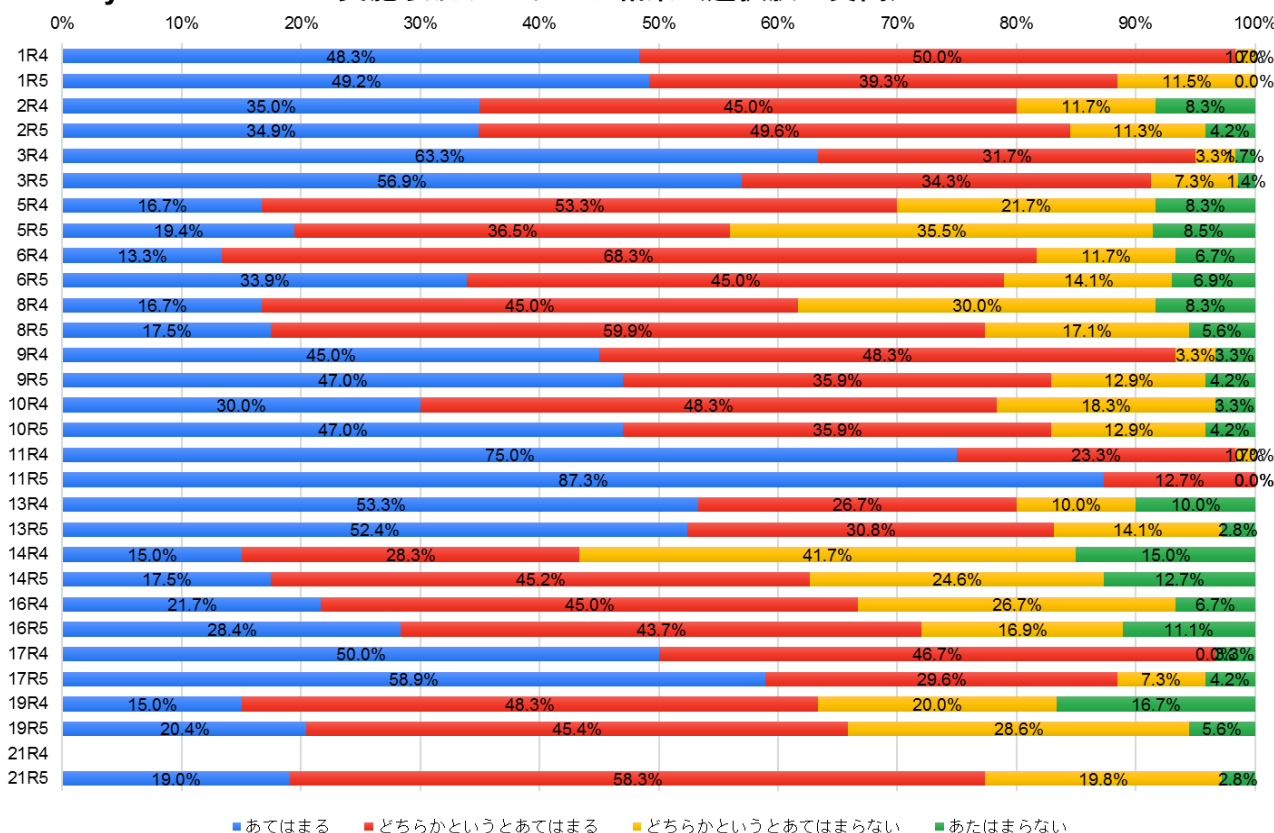
2 改善策

- ①エビデンスを明確にした業務の精選や見直し(必要性の検討)
- ②業務負担の軽減を目指した地域との連携・協働による地域教育資源の有効活用
- ③NSAの見直しによる教職員個々の意識改革

中学校

Nayoro Star Action 実施状況調査アンケート結果 (選択肢の質問)

Nayoro Star Action実施状況アンケート結果 (選択肢の質問)



1 成果と課題

(1) 成果

- ①R4 年度の調査と比較して項目 14 については肯定的な評価が約 20%増加している。職場体験学習が本格的に再開されたことや交通安全街頭指導などの外部化が進んでいる。また項目 6 についても改善の要素は依然あるものの、各学校において業務の精選や見直し、簡素化が R4 年度に比べ、大きく進んでいる。
- ②R4 年度は肯定的な評価が 5 割を切っている項目もあったが、R5 年度は最低でも 5 割を上回っている。項目 19 においては肯定的な評価は微増であるが、「あてはまらない」という評価が 10%減っていることから、働き方改革を実感できる教職員が増加していることがわかる。

(2) 課題

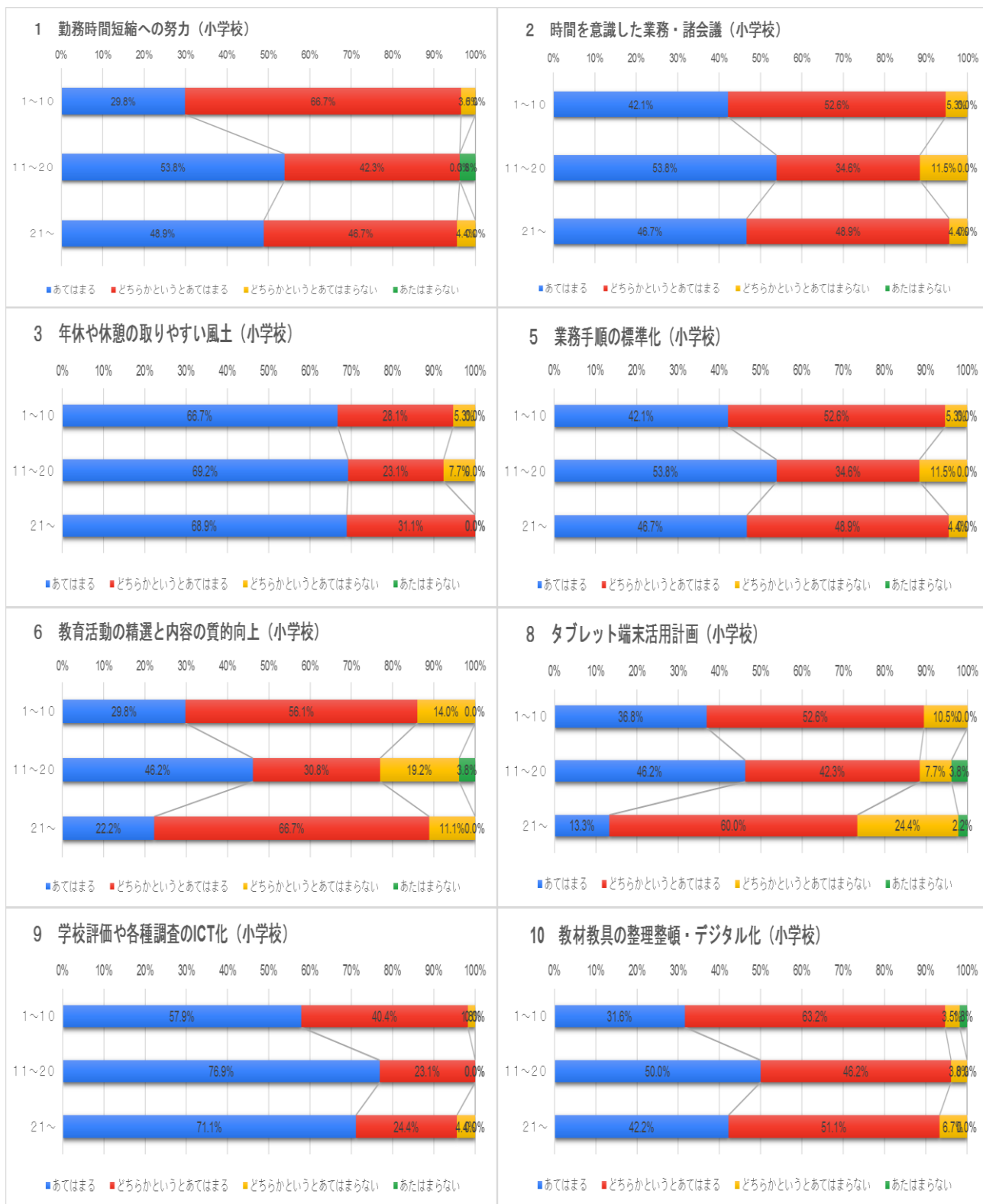
- ①項目 5 において R4 年度より 14%肯定的な評価が下がっている。業務手順の標準化等について課題は残るが、記述回答の中には、制限の緩和、やりがいを大切に業務の推進という部分で、教育の質の向上が見られた。
- ②中学校では部活動への負担から、すべての項目で小学校に比べ評価が低くなる傾向がある。

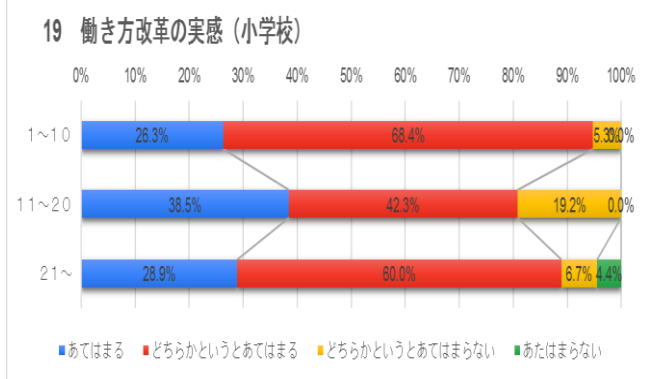
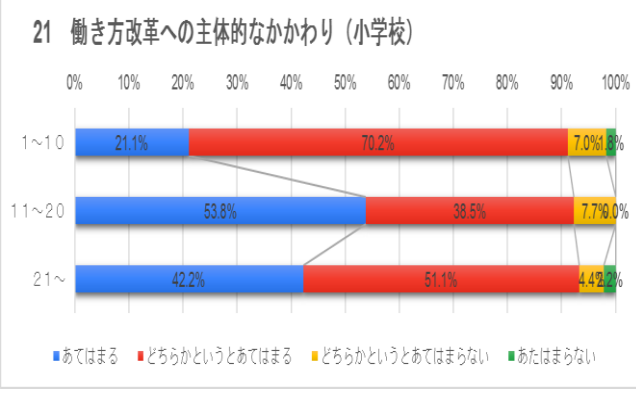
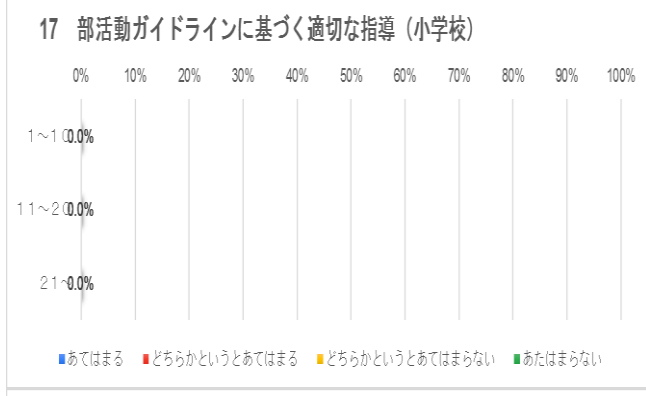
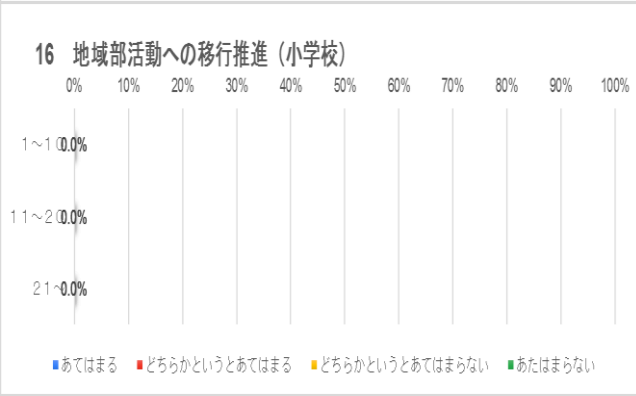
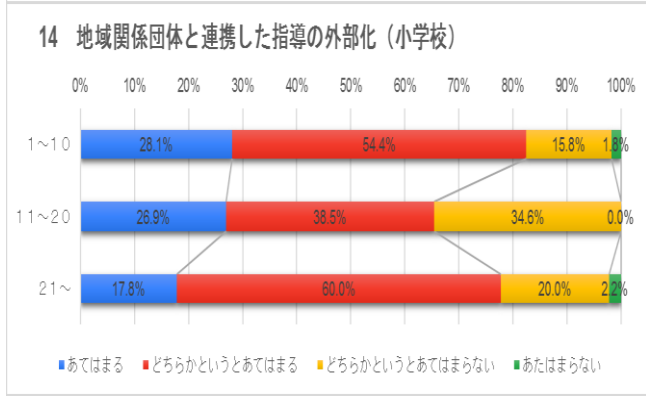
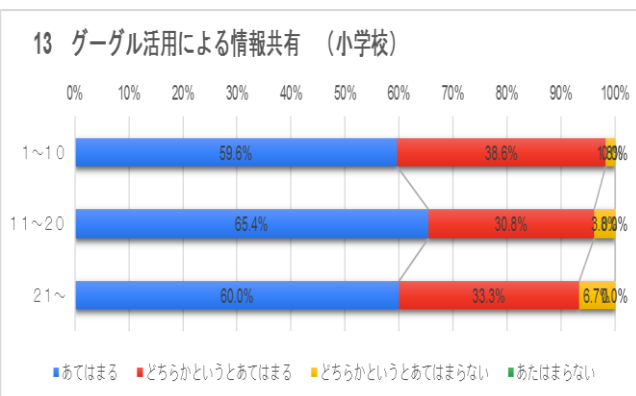
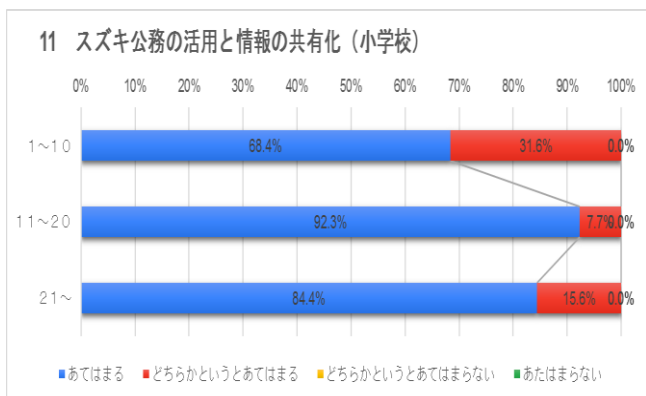
2 改善策

- ①やりがいや教職員個々の強味を生かした効果的な教育活動の推進
- ②エビデンスを明確にした業務の精選や見直し (必要性の検討)
- ③部活動ガイドラインの重視と合同チームや拠点校部活動の推進 (地域への理解)

【資料】

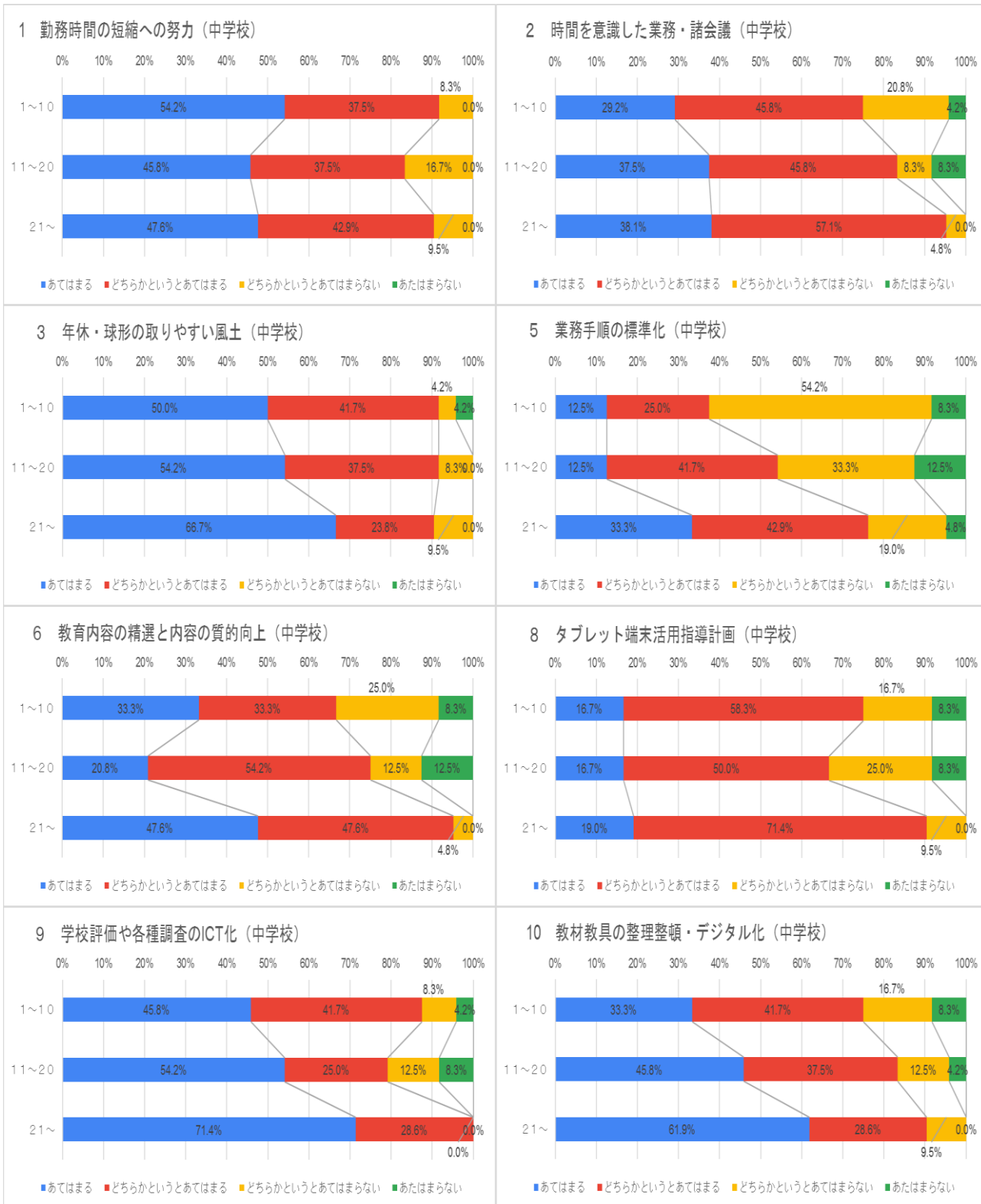
小学校 Nayoro Star Action 実施状況調査アンケート結果 (年代別)

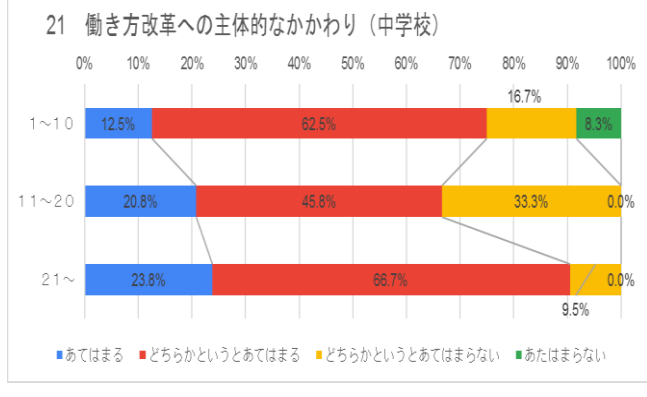
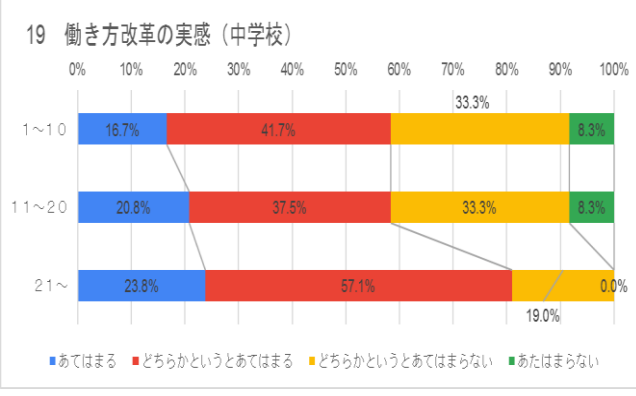
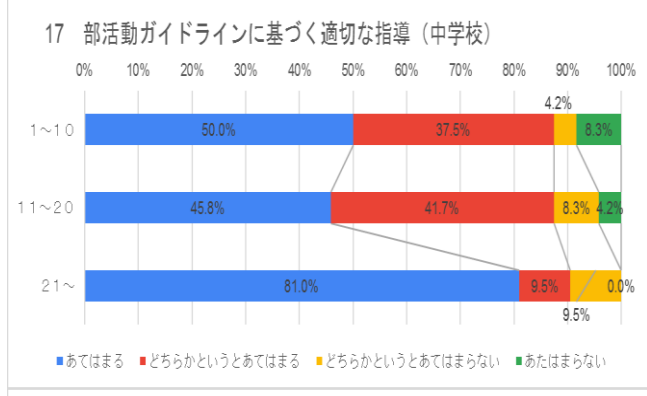
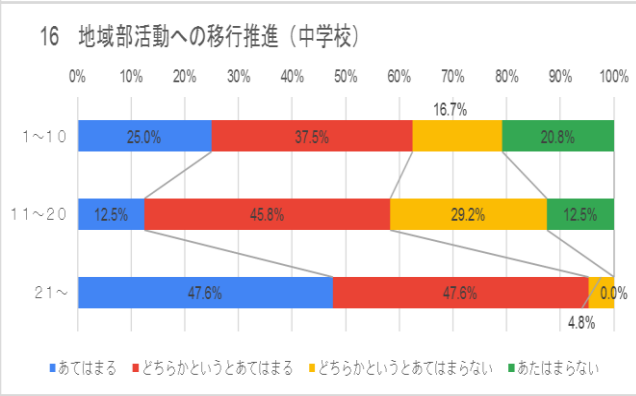
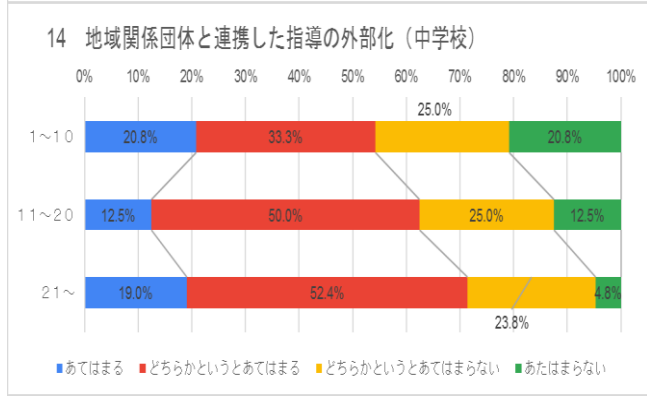
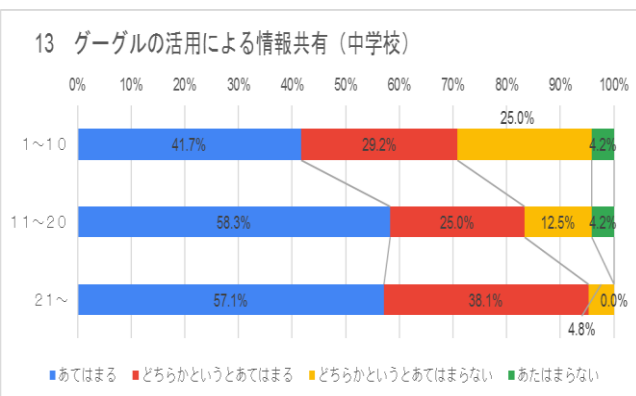
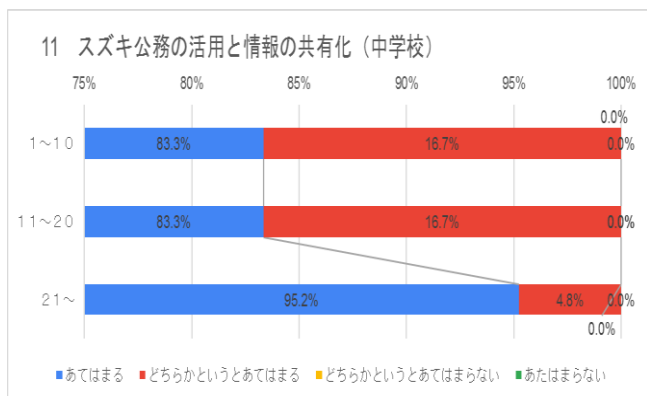




【資料】

中学校 Nayoro Star Action 実施状況調査アンケート結果 (年代別)





令和5年度 名寄市働き方改革指標（Nayoro Star Action）に関する実践状況アンケート（記述内容）

※青字：学校で工夫した取組／赤字：意見・要望等

質問4 【Action1】 「Action 1 意識改革及び環境構築」につきまして、あなたの学校で工夫した取組や、意見・要望等がありましたらお書きください。

	小 学 校	中 学 校
1～10年目	<ul style="list-style-type: none"> 日課の工夫による業務時間 ・会議時間の確保 定時退勤日 ・退勤時刻の設定 業務の効率化（会議を減らす、短縮化、行事の精選） コアチームを中心にした業務改善と環境構築の推進 業務のマニュアル化の推進（職員会議、授業の進め方、学年での教科分担） 情報交流の推進・情報のクラウド化 優先順位の高い業務を推進できる時間の確保 複数の担任が休んだ時の補欠対応 勤務時間の短縮に向けた取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学級通信の廃止 管理職のリーダーシップによる会議時間の短縮
11～21年目	<ul style="list-style-type: none"> 業務の平準化 ・定時退勤日の設定 日課の工夫による業務時間、会議時間の確保 年休を取りやすい風土づくり ICT の利活用 	<ul style="list-style-type: none"> 会議や打ち合わせの短縮化 部活動ガイドラインの遵守 部活動の複数顧問配置 ICT の利活用
21年以上	<ul style="list-style-type: none"> 日程の工夫（休憩時間、放課後業務時間の確保、職員会議、打ち合わせの効率化、短縮日課の増加、「授業準備の日」設定、定時退勤日の設定） 各種資料のデジタル化 コアチームによる取組の推進 ICT の利活用（Google アプリ） 人事評価シートの学校設定目標の活用（働き方改革） 個々の意識化の推進 さらに働き方改革を進めてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 時間厳守の呼びかけ 会議資料のデジタル化 ICT の利活用（非同期型会議、情報の共有化、業務用スマホの導入） 各種資料のデジタル化 休憩時間の分割個別付与 休憩時間の確保（15：30以降の会議の設定） 業務の平準化

質問7 【Action2】 「Action 2 業務の見直しとマニュアル化」につきまして、あなたの学校で工夫した取組や、意見・要望等がありましたらお書きください。 ※青字：学校で工夫した取組／赤字：意見・要望等

	小 学 校	中 学 校
1～10年目	<ul style="list-style-type: none"> ・業務マニュアルが存在しない ・SBの簡素化 ・行事の簡素化が必要 ・学級通信の制限及び内容の統一 ・行事の精選に向けた動き ・行事の精選ができていない・学級通信、通知表の廃止 ・時間割をスプレッドシートで作成し統一 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の精選に向けた動き ・ICTの利活用（反省集約、テスト等の計画表） ・意識改革（業務削減）を推進しづらい雰囲気 ・個人の取組の限界 ・各種業務に関する必要なデータ等の整理 ・分掌業務内容の見直し
11～21年目	<ul style="list-style-type: none"> ・スクラップ&ビルドの充実（積極的なスクラップ） ・学級通信等の制限 ・児童の休み時間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・制限の緩和による働き甲斐ある業務の推進 ・時間をかけたい部分に時間をかけられる業務の推進 ・市教委や道教委、文部科学省による業務の見直し ・通知表の所見や道徳の文章での評価、総合の文章での評価の削減
21年以上	<ul style="list-style-type: none"> ・業務手順のマニュアル化の推進（詳細化や記録化） ・学校以外からの「教育内容の精選、内容の見直し」についての発信 ・行事内容、会議、業務等の見直しとコロナ時期の取組の簡素化の継続 ・業務改善リストの活用 ・学級通信の制限及び内容の統一 ・スクラップ&ビルドの充実（積極的なスクラップ） ・ホームページの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の削減（要録と通知表のひもづけ・会議の簡素化） ・非同期型会議による会議の短縮化 ・校務分掌の重複（小規模校） ・業務マニュアルの作成 ・マニュアルのデジタル化による共有化 ・出欠連絡のデジタル化 ・コロナ禍の取組の活用（行事等） ・ペーパーレス化の推進

質問12 【Action3】 「Action 3 ICT の効果的な活用」につきまして、あなたの学校で工夫した取組や、意見・要望等がありましたらお書きください。 ※青字：学校で工夫した取組／赤字：意見・要望等

	小学校	中学校
1～10年目	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスルーム活用 ・保健関係のICT化 ・スズキ校務の活用 ・研究部によるICT利活用研修の推進 ・各授業でのICTの利活用 ・各行事の反省 ・日報、週案、出席確認 ・あんしんメール、マチコミメールの活用 ・タブレットの容量増加 ・校務、職務の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・ChromeキャストやアップルTVによる大型提示装置の活用 ・通信環境が悪い ・タブレットの使いづらさ ・シンクラの不具合 ・アプリの使いづらさ（マイクロソフトアプリを使用している）
11～21年目	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等の設問の精査 ・教材教具の整理整頓、デジタル化 ・タブレットの保存場所 ・学校評価や各種調査、行事の反省のICT化 ・デジタル教科書 ・授業の活用 ・働き改革 ・情報の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT化による情報管理
21年以上	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット活用の日常化 ・学校規模に依じたICT化 ・フォームを作成する方が手間な学校 ・アンケートや出欠確認に活用 ・デジタル教科書の活用について市や委員会からの紹介や提示 ・行事黒板・日報等の連携 ・ジャムボードを使用した研修 ・各校の学校暦や各校の運動会・学芸会プログラムの交流（次年度） ・指導計画や教育課程への朱書き（次年度に向けて） ・職員会議、校内研修のペーパーレス化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート グーグルクラスルームの活用 ・zoomを活用した別室登校の生徒への授業配信 ・業務用スマホによる情報の共有化 ・会議でのクラウド利用 ・DX化の段階を意識した改善 ・グーグルの共有フォルダの効果的な活用 ・生徒総会の議案書をデータ化 ・生徒会選挙のデジタル化

【資料6④】

質問15 【Action4】 「Action 4 地域・関係機関との連携」につきまして、あなたの学校で工夫した取組や、意見・要望等がありましたらお書きください。 ※青字：学校で工夫した取組／赤字：意見・要望等

	小学校	中学校
1～10年目	<ul style="list-style-type: none"> 他機関と連携し実効性のある取組についての議論 学校・家庭・地域で起きているトラブルについて、どこが主体となって対応することか整理し、周知することが必要 ICT を利活用した学校間、地域間の情報共有 学校 HP で時間割等を紹介 ICT の利活用（時間割・アンケート） 少年団指導の地域連携 児童の出席、遅刻、早退を Google フォームで連絡 	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関との連携・協力 部活動に関する地域連携に手詰まり感
11～21年目	<ul style="list-style-type: none"> 校外で発生した児童生徒間のトラブル対応 外部講師（キャリア教育）の活用 学校・家庭・地域で起きているトラブルについて、どこが主体となって対応することか整理し、周知することが必要 PTA 活動が難しくなっている 	<ul style="list-style-type: none"> 地域教育資源の共有 生徒指導巡視の PTA への移行（お祭りなど）
21年以上	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域安心会議と連携協力（街頭指導、学級園（畑）） スクールソーシャルワーカーの活用 スクールカウンセラーの活用 大学との連携（学習会） 適応指導教室との連携 街頭指導の外部委託の困難化（高齢化） 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の一本化 地域コーディネーターと連携（人材や団体を紹介） 学校運営協議会主催によるクリーン作戦 教育支援センターとの連携 市立大学との連携

質問18 【Action5】 「Action 5 部活動指導の負担軽減」につきまして、あなたの学校で工夫した取組や、意見・要望等がありましたらお書きください。 ※青字：学校で工夫した取組／赤字：意見・要望等

中学校	
1～10年目	<ul style="list-style-type: none"> • 合同部活動は他校の生徒と関わる良い機会 • 部活動の地域クラブチームへの移行 • 部活動指導員の活用 • 中学校の教員になると決めた時点で部活を担当する覚悟がある。 • (部活動にかかわる) 同じような会議で同じ話をするが、現状は変わらない。 • 部活動指導を外部に委託するためには時間とお金の補償が必要 • 外部化が一向に進んでいない。活動日や活動時間以外の部活に関わる業務について議論する必要がある • 長期休暇時の平常時の活動時間が勤務時間外にならない工夫が必要 • 合同部活動での複数顧問体制の維持
11～21年目	<ul style="list-style-type: none"> • 負担は軽減されていない • 顧問の数の確保、地域人材の確保に課題 • 部活動の仕事の削減、又は廃止 • 部活動にかかわる手当等の保証（部活動指導員に支給されていて顧問に支給されないことへの不公平感） • 中学校に部活がある限り、部活動による時間外勤務（休憩時間の指導も含む）はなくなりません。 • 心技体を十分に成長させる部活運営（部活動の負担減ができないのであれば） • 土日の部活動を外部に依頼することの負担感
21年以上	<ul style="list-style-type: none"> • 指導人材の確保 • 複数人体制による部活動指導 • 市内各校の部活動指導時間の統一 • 休養時間の徹底 • 合同、拠点校スタイルの推進

【資料6④】

質問20 【全体】 質問19（あなたやあなたの学校には、働き方改革が進んでいるという実感がありますか。）で「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」とこたえた方にお聞きします。進んでいると実感できるためには、何が必要だと思いますか。 ※青字：学校で工夫した取組／赤字：意見・要望等

	小学校	中学校
1～10年目	<ul style="list-style-type: none"> 行事の精選 業務削減 人員の確保（増加） 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の地域移行 ・人員増加 勤務時間外の部活動に対する補償（手当支給や割り振りなしなど） 業務内容の精選、見直し（行事や校務分掌、委員会活動、部活動指導、所見などの簡略化） PTAの廃止 ・授業時数の見直し（余剰時数の削減） 職員全員の足並みを揃えること
11～21年目	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革は学校単位で進めるものではない 働き方改革のゴールイメージの共有と達成度の検証改善による働き方改革の実感 業務の「量的減少」だけでなく「質的向上」の実感 業務自体の精選 時間外の対応 	<ul style="list-style-type: none"> 学校単位ではなく、市としての取組（通信発行、退勤時間の設定等） 委員会や議会、局と連携した調査物の軽減 教員の増加 市としての不登校学級の設置 部活動の外部委託 業務の精選、削減（会議等軽減、職員会議の精査、PTA活動の見直し等教育課程の精選、アンケートの廃止、部活動の廃止） 休憩時間の確保 働き方に関する意識改革
21年以上	<ul style="list-style-type: none"> サービスの徹底 業務の内容、取組方の見直し、削減 現場ではもう限界（みなさんととてもよく考えられ必死で取り組まれています） 抜本的な改革案の提示（予算増、人員増） 	<ul style="list-style-type: none"> 業務の簡素化、精選、削減 業務の平準化、空き時間の確保 教職員の増員 働き方改革による業務負担 部活動の抜本的な見直し

質問22 【全体】 あなたは、自分自身の「働き方改革」を進めるために、何をしたいと考えますか。
 ※青字：学校で工夫した取組／赤字：意見・要望等

	小学校	中学校
1～10年目	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な業務の推進 ICTの利活用による業務の効率化 業務の効率化と精選 ・教材の共有 見通しをもった業務推進 ・優先順位をつける 組織的対応と業務の平準化。 次年度も見越した提案文書の改善や業務改善 空き時間の活用 ・一生懸命仕事をする コアチームを中心とした「働き方改革」への協力 働き方改革に向けた活動に率先して取り組む 分掌業務や教育課程の見直し 細かいことにこだわりすぎないこと。 誰が見てもわかる引き継ぎ資料の作成 	<ul style="list-style-type: none"> なんでも欲張らないこと 取捨選択、優先順位をつける 業務の精選と効率化、見直し、削減 こだわりをもちすぎない 身の回りの先生方に対する配慮 教員数増 業務の平準化 自分でできることは自分でやる 定時退勤、部活動の廃止
11～21年目	<ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化、精選（会議時間の短縮、見通しをもった業務推進、取捨選択、） 自分のために仕事をする風土の醸成 教員間の情報共有 ICTの利活用（データの整理整頓、スキルアップ） 公務の平準化 時間や相手を意識した業務推進 必要最低限の余時数運用 目的を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> 業務の精選、効率化、軽減（見通し、会議のスリム化、求める質と仕事の割り振り方） 空き時間の有効活用 ・異動初年度の教職員への配慮 もう十分やっている 率先して働き方を変える取組の推進 個々が取り組む働き方改革の限界（市や道からの改革が必要） 意地でも16：30に退勤 教材教具の整理整頓 ・朝の時間の活用 自分自身の指導範囲外のことは悩まない 働きやすい職場環境の構築
21年以上	<ul style="list-style-type: none"> 業務の平準化（校内業務の適正な分担） 責任と自覚をもって業務を遂行する意識の醸成 業務の精選、効率化（行事、見通し、時間を意識した 	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の推進（定時退勤、コアチームを中心としたボトムアップ） 「働くこと」に対する価値観の変容

	<p>業務推進、計画性</p> <ul style="list-style-type: none">• HP、ポータルサイト活用• 各種取組のねらいの焦点化と取り組み方の適正化• ICT の利活用（教材教具の整理整頓、資料、提案のデジタル化、各種経理の簡素化や効率化）• 取捨選択、仕事に優先順位をつける• 働き方改革案の提案（提示退勤等）• 自身の意識改革• やりがいの感じる仕事業務内容の精選• 単なる勤務時間削減からやりがいへ• 労働内容への満足感・充実感を高めていくこと• 休憩時間の積極的利用• P T A活動の削減• 保護者・地域への説明• 各学級の授業支援• 業務の効率化	<ul style="list-style-type: none">• 個別最適化ではなく、全体最適化の指向• 業務の精選、見直し、削減（調査や職務外業務、内容・時数の見直し、指導計画、文章業務、タイムマネジメント）• 教職員の業務の平準化• 中体連組織の見直し
--	--	--